

JICAの教育協力

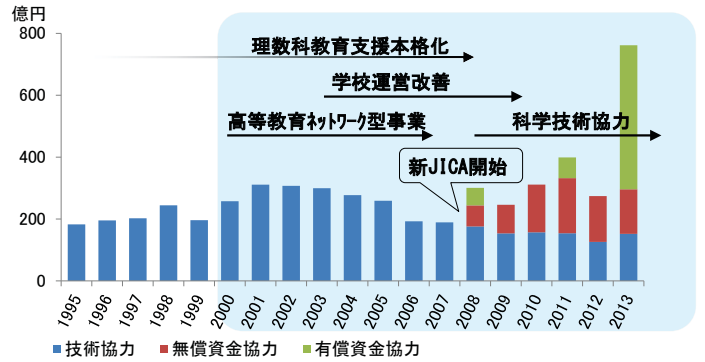
- 「途切れない学び」の実現に向けて -

2016年2月24日

独立行政法人 国際協力機構
国際協力専門員
萱島 信子

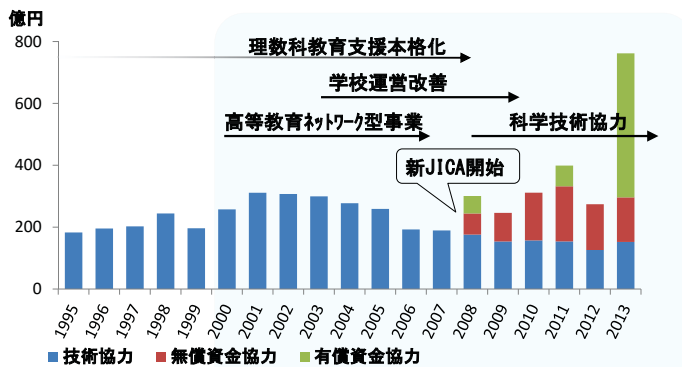
これまでのJICAの教育協力 (2000-2015)

EFA/MDGs 2000-2015 ⇒ JICAの教育協力事業の多様化
基礎教育協力事業本格化の時期



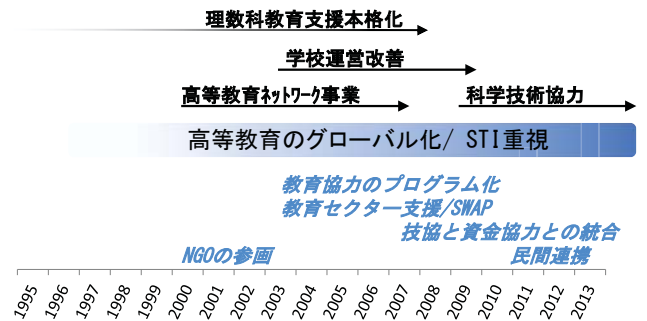
これまでのJICAの教育協力 (2000-2015)

EFA/MDGs 2000-2015 ⇒ JICAの教育協力事業の多様化
基礎教育協力事業本格化の時期

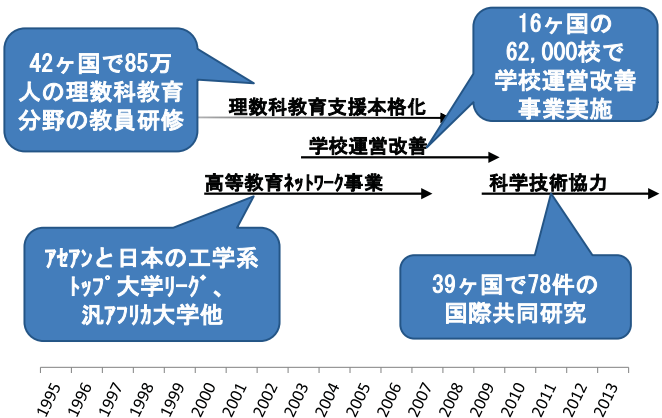


これまでのJICAの教育協力 (2000-2015)

基礎教育の質の改善ニーズ



これまでのJICAの教育協力 (2000-2015)



2015年：MDGsからSDGsへ

グローバルな環境の変化
開発課題の複雑化やグローバル化
新興国や中進国の成長と途上国間の格差の拡大
課題間や国家間の相互依存/相互関連
民間セクターの役割の増大

教育開発のニーズの変化
基礎教育の質の改善と残された格差の是正
中等教育と高等教育のニーズ増大
グローバル化や知識基盤社会化への対応

日本のODAを取り巻く環境の変化
成熟社会の到来と多くの社会的課題
国際社会における経済的地位の変化
厳しい財政状況とODA予算の減少

SDG4(教育) 途上国と先進国がともに掲げる、就学前教育から高等教育や生涯学習にまでわたる教育開発の目標

これからのJICAの教育協力 (2015-2020)

JICA 教育協力ポジションペーパー 2015

ビジョン 途切れない学び (Learning Continuity)

(1) 就学前教育から高等教育まで包括的な支援
(2) 緊急教育支援から中長期的な開発支援
(3) 他セクターとの相乗効果を図り、他のSDGsゴールに貢献する支援

基本理念 信頼 | 学び合いによる知識の創出 | 公正・インクルーシブ

アプローチ

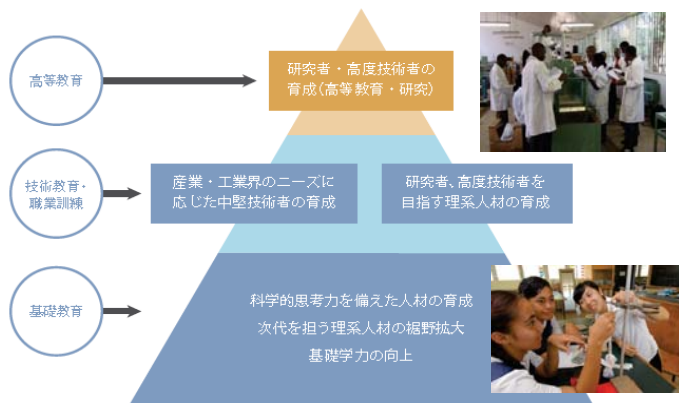
(1) 政策と実践のリンク強化
(2) エビデンス(実証)に基づく政策提言と実施の強化
(3) 多様なアクターとのパートナーシップ強化
(4) セクター横断的なアプローチによる相乗効果

これからのJICAの教育協力 (2015-2020)

重点分野

- 1. 教育の質の改善**
 - 「学びのサイクル」アプローチ
 - グローバル/リージョナルな学び合い
 - 社会や地球規模の課題解決に対応する教育
 - 質保証/アセスメント
- 2. 公正で持続的な成長**
 - ディーセントワークにつながる職業訓練
 - 産学連携による産業人材の育成
 - 国づくりのための行政官等の基盤人材の育成
- 3. 知識共創社会の創造**
 - 科学技術イノベーション人材の育成(初中等理科から高等工学教育まで連続した支援)
 - 知のネットワーク化
 - 留学生受入事業
- 4. インクルーシブで平和な社会の形成**
 - 不利な立場に置かれている人々への教育支援
 - 紛争や災害の影響を受けている人々への教育支援
 - 国づくり/平和づくりのための長期的な人材育成

重点分野3: 知識共創社会の創造



重点分野 4: インクルーシブで平和な社会の形成

障害

- モンゴル障害児の教育の充実、社会参加の促進を通じ、インクルーシブな社会の実現を目指すプロジェクト。
- 「教育技プロ」+「社会保障技プロ」= 障害者の一生涯を支える分野横断的なプロジェクト

災害

- ネパール災害復興支援: 学校再建(ハード)+防災教育(ソフト)支援

紛争

- レバノン: 学校運営を通じたシリア難民支援(2016年度開始予定)

これからのJICAの教育協力：傾向と特徴

- **教育開発ニーズの多様化とそれへの対応**
教育の質の改善
中核的な高等教育機関育成と国際連携 ← 事業量の急速な拡大
不利な立場に置かれている人々への教育支援(女子・女性、障害等)
紛争/災害後の緊急的な教育復興
- **多様なステークホルダーとの連携と協調**
国際機関、NGO
民間企業 ← 民間の資金や知見を開発にいかす
- **日本自身の課題と国際協力の接近**
途上国と日本で共有される開発課題が増加
グローバル化の要請 ← 日本の産業、大学、地方都市、人材他
グローバルな学び合い(国際会議、国際学会等)

日本自身の課題と国際協力の接近

日本と途上国で共有される開発課題に途上国と共同で取り組む、国際協力への取り組みが日本のグローバル化にプラスの効果を生む、などの例が増えている。

高等教育協力の場合…

日本の約200の大学の延5,000人以上の教員を、途上国の大学に専門家として派遣(1990~2013)。日本の大学の国際化に貢献。

青年海外協力隊の場合…

日本の小中高校の1,000人以上の現職教員をボランティアとして途上国に派遣(2002~2015)。日本の学校現場のグローバル化(国際交流、国際理解、外国籍児童対応等)の一助に。